科目ナンハ	(リング	U-LAS70 10001 SJ50										
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー: 里山の物質循環 燃料・肥料・食料から考える ILAS Seminar: Matter cycling of SATOYAMA ecosystem from a viewpoint of fuel, fertilizer and food											
群	少人数群	単位数		2単位		時間数		30時間		授業形態	ゼミナール	,(対面授業科目)
開講年度· 開講期	2025・ 前期集中	受講定員 (1回生定員)		12 (12) 人		配当学年		主として1回生		対象学生	全学向	
曜時限	集中 未定	教室 農学部線 (北部構			総合館及び上賀茂試験地 内)			使用言語	日本語			
キーワード	里山 / 物質循環 / 生態学 / 持続可能性 / 森林科学											

[授業の概要・目的]

|このILASセミナーでは、身近な自然から地球規模での課題についての理解を深めることを目的として、里山での物質循環の観点から燃料・肥料・食料の持続可能性について考えるための知識を習得し、関連する体験を通じて考察します。事前学習の講義では、里山生態系の特徴や生態学における物質循環の考え方や調査方法について学びます。さらに、京都市郊外に位置する上賀茂試験地において、都市近郊の里山において、フィールド実習を行います。フィールド実習では、物質循環研究に関連した土壌調査や植物調査を行うとともに、下草刈り、炭焼、シイタケの駒うちなど里山での作業体験を行います。さらに、取得したデータや既存のデータ等を活用して、また様々な作業の実体験を元に、里山の物質循環や燃料・肥料・食料の持続可能性について総合的に考察を行います。

[到達目標]

里山生態系の特徴を理解する。

生態系の物質循環の考え方を理解する。

物質循環に関する基本的な調査方法をフィールドワークを通して理解する。

里山での作業について理解する。

|持続可能性について、物質循環の観点から考察する能力を身につける。

[授業計画と内容]

- 1.ガイダンスおよび里山生態系の特徴
- 2.里山生態系の物質循環
- 3.里山生態系の資源循環
- |4-7.里山でのフィールドワーク
- (土壌調査、植物同定、植物調査、バイオマス調査)
- 8-11.里山での作業体験
- (伐採、炭焼、下草刈、駒うち)
- 12-14.里山での燃料・肥料・食料に関するワーク
- (燃料・肥料・食料に関する現地調査・文献調査)
- 15.討論:燃料・肥料・食料の持続可能性について考える

1は、4月25日の5時限目後の時間帯でフィールド研会議室(北部構内・農学部総合館)で行い、2-15に関しては、上賀茂試験地(京都市北区)で3日程度の集中講義で行います。

|開講日は4月26日、8月7日、8月8日を予定しています。

ILASセミナー : 里山の物質循環 燃料・肥料・食料から考える (2)へ続く

『ILASセミナー :里山の物質循環 燃料・肥料・食料から考える (2)

実習場所:

|京都大学フィールド科学教育研究センタ里域ステーション 上賀茂試験地

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山

Tel:075(781)2404

https://fserc.kyoto-u.ac.jp/kami/

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価(授業への参加状況)...60点

討論への積極的な参加...20点

レポート...20点

で総合的に評価します。

[教科書]

プリント配付

[参考書等]

(参考書)

石井弘明、徳地直子、榎木勉、名波哲、廣部宗編 『森林生態学』(朝倉書店)ISBN:978-4-254-47054-3

[授業外学修(予習・復習)等]

講義内容をしっかりと復習して、屋外での活動や討論に積極的に参加できる準備をして下さい。

[その他(オフィスアワー等)]

- (1)学生教育研究災害保険、附帯賠償責任保険には必ず加入しておいて下さい。なお、保険加入 にあたっては、家族等とよく相談してください。
- (2)費用は特に発生しません。ただし、上賀茂試験地までの交通費や実習中の食事や飲み物などは各自で負担してください。
- (3) PandAやメールで本実習に関する連絡が届きますので、見落とさないようにして下さい。

[主要授業科目(学部・学科名)]